

平成30年度東京都立松が谷高等学校学校経営報告

3 今年度の取組目標と自己評価

I 教育活動の目標と方策

(1) 教育課程の検討

- ・新学習指導要領の告示を受け、本校の教育理念や実態に基づく適正な教育課程を検討した。特に今年度は、新学習指導要領の理念を踏まえた、学校の軸となるグランドデザインを確立させた。次年度はグランドデザインに基づき、生徒一人一人にきめの細やかな学習指導を行い、大学入試の合格者定員厳格化と言われる厳しい時代にあっても、現役合格のできる学力をつける。

(2) 学力の向上について

- ・1、2学年で英語プラス1教科（文系は国語、理系は数学）の基礎学力を固め、一般受験で希望する進路を実現できる学力を身につけさせるために、宿題や小テスト、週末課題など、生徒の自宅学習時間を増やすための取組みを行った。その結果、進研模試データによる英国歴史の文系受験科目で、昨年に引き続き生徒の学力は伸びている。
- ・アクティブ・ラーニング推進校として2年目の取組を行った。1、2回目は「主体的な学び」「深い学び」をテーマに、アクティブ・ラーニングの視点での授業研究を実施し、協議会を行った。2回目は、教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事による指導・助言を得た。3回目は、産業能率大学小林昭文教授にお越しいただき、「『主体的・対話的で深い学び』をどう実現するか～組織的活動と評価方法について」というテーマで講演をいただいた。

(3) 外国語の確実な習得について

- ・英語教育推進校として、タブレットの活用によるGTEC Speaking Testを12月に実施し、GTECの活用による生徒の英語の4技能の着実な向上を図った。
- ・英語教育推進のために、図書館の英語多読図書の活用を推進した。2月に普通科の生徒が英語版ビブリオバトル（書評合戦）を実施し、普通科の生徒に対しても英語多読図書の活用を推奨した。
- ・夏季休業日中に希望者によるイングリッシュ・サマーキャンプを福島県のプリティッシュヒルズで実施した。
- ・12月に1学年対象に、今年度オープンした東京グローバル・ゲイトウェイで語学研修を行った。空港のカウンターや外国で病気になった場合などの場面を想定しミッションを与えられ、ネイティブとの会話の練習を行った。
- ・1、2年生全員を対象に12月にGTEC for studentsを実施した。生徒の英語力の伸長について、次年度にデータの蓄積及び分析を行い、その後の指導に活用する。
- ・希望者に実用英語技能検定を実施した。新しい大学入試制度では語学力が重視されることを繰り返し周知した結果、昨年度より準2級は8名、2級は7名、準1級は3名(他に一次試験合格1名)と合格者が増加した。1次試験前にはe-ラーニングによる指導、2次試験前には面接指導を行った結果、2次試験は準2級は92%、2級は89%の合格率になった
- ・次世代リーダーに12名が受検、うち5名が合格し留学した。また、国際ロータリークラブでの留学者が1名決定した。
- ・全国英語教育研究団体連合会主催「英作文コンテスト」に2名の生徒が入選した。また全国英語教育研究団体連合会主催「ディベートコンテスト」に3名の生徒が出場した。

- ・11月に英語教育推進校成果発表会を行い、地域小学校・中学校、高等学校の教員、大学生、塾の先生など多岐にわたる方々に発表を聞いてもらった。西部学校経営支援センター鶴飼敦之課長に指導助言をいただいた。
- (4) 規範意識の向上について
- ・落ち着いた学習環境、安心かつ安全に学べる環境を維持するために、生活指導部を中心に、生活指導統一基準の全体計画に沿って、日常的に生活指導を行った結果、年間を通じて学習環境に関する苦情は聞かれなかった。
  - ・①交通ルールの遵守、②挨拶の励行、③頭髪・身だしなみ等に関する校則の遵守、④時間厳守、⑤チャイム着席等の授業規律の確立という5つの目標の達成に向けた指導を組織的に行い、生徒の規範意識を育成した。特に挨拶については、始業式等でも繰り返し徹底し、活発になった。近隣住民からもお褒めの言葉をいただき、評判が上がっている。①から⑤については、ほぼ達成できた。①については、本校は上り下りの多くある地域に属しており、スピードが出て自転車の事故の多い学校であったが、今年度は事故がなかったのが何よりである。継続して特に自転車の事故防止に努める。
  - ・薬物乱用防止教室、インターネット、携帯等の正しい利用に関する講演会も実施し、ネット犯罪の被害・加害とネットいじめ問題等の防止を図った。
  - ・12月に八王子警察署の支援をいただき、スクアード・ストレイトによる交通安全教室を実施した。実際の交通事故とはどういうものなのか、疑似体験を見ることを通して意識改革を行い事故防止に努めた。
- (5) 希望進路の実現について
- ・入学時からキャリア教育プログラム、進路指導計画に沿って、進路指導部を中心に、全学年が統一感を持った計画的、組織的な進路指導を行った。
  - ・「人間と社会」について、昨年度の課題を整理し、学年担任や保健部等と連携して内容を検討した。仕事クラブ、宿泊防災訓練時の救急訓練や水道局と連携した応急給水訓練、地域清掃などで、就労体験や奉仕活動を行った。
  - ・教員による進路指導・進路相談の充実を図るため、模試データ等の指導資料をシステム化し、データに基づいた進路指導を定着させた。さらにデータの精度を高めるために3年の6月にも模試を実施した。同時に大学・短大進学希望以外の生徒に対しても同日に充実したプログラムを実施した。
  - ・昨年度の大学入試は、都内大学の入学定員の厳格化により厳しい結果となったので、今年度は早い時期からAO、推薦対策を行った。結果としてMARCH、日東駒専の合格者が減少したが、浪人生を出さないよう努め、73%の進路決定率となった。
  - ・2学年は、HRや「総合的な学習の時間」での進路学習を行った。各自進路に繋がる探究活動を行い、3月には発表会を行った。
  - ・生徒の興味を引き出し探究活動に繋がるよう、体験学習やボランティア活動などの情報提供を行った。少しずつ将来を考え参加する生徒が出てきているという反響があった。
- (6) 意欲ある受検生の確保について
- ・私立高校授業料無償化に伴い、応募倍率が減少したり、私大付属高校の倍率が上昇したりする傾向にある中、外国語コースについては英語科と連携し、受検生に適切な情報を提供した。外国語コース説明会は、今年度も英会話以外にも映画聴き取りや英語多読など、本校の外国語コース教育の特色が十分に伝わる内容にして、学校説明会と一体化し開催した。全体としても、学校見学会、学校説明会などで、その時々の学習の仕方などを具体的にアドバイスした。その結果、入選倍率は普通科1.62倍、外国語コースは1.54倍と高倍率になった。今年度は夏の学校見学会に2,386名、秋の学校説明会には1,246名の中学生、保護者が来校

した。学校見学会、学校説明会出席生徒は前年よりも減少しているが、総数は793名増加した。

- ・学習塾対象の学校見学・説明会を2回実施し、学校理解に努めた。特に外国語コースの説明を丁寧に行うことができた。

(7) 生命尊重と人権感覚の磨かれた生徒の育成について

- ・9月に生命尊重に関する教員対象研修会を実施した。その後、ホームルーム担任により生命尊重の内容でのホームルームを実施した。次年度は専門家による講演会を行うことを検討している。
- ・生徒、保護者の悩みに対応するため、教職員がスクールカウンセラーとの連携を密にして教育相談を実施した。教育相談委員会を中心に、いじめや不登校の予兆の早期把握に努めた。しかし今年度は、入学当初から不登校気味の生徒の改善を図ることができず、4名が中途退学となった。
- ・いじめ防止対策推進法の趣旨に沿って、校内体制を整備し、いじめに関するアンケート調査を各学期1回ずつ年3回実施し、早期対応を心がけた。いじめに関する事案が発見された場合、いじめ防止対策委員会を中心に、管理職、学年、生活指導部、保健部及びスクールカウンセラー等が連携し、早期に対応、早期に解決することに努めている。

(8) 環境・健康教育と防災教育の充実について

- ・学習に適した環境を維持するために、ごみの分別指導について保健部が主導して環境委員会を中心とした指導を継続し、ほぼ徹底できた。
- ・環境に関する意識を高めるために、全校体制で省エネに取り組んだ。
- ・安全・安心な学校づくりのために、安全教育、防災教育の充実を図る。セーフティ教室を全学年対象に実施するとともに、宿泊を伴う防災訓練も含め、年4回避難訓練を実施した。

(9) 部活動の充実と体力の向上について

- ・部活動を推進するために、部活動の加入率をさらに上げる工夫をし、部活動加入率は84%の高水準を維持した。今年度は陸上競技部が関東大会に進出し、アーチェリー部は全国選抜大会に出場した。また、硬式テニス部は東京都公立学校大会で男子が優勝、女子が準優勝するなど躍進が著しかった。
- ・部活動指導の方法を点検し、徹底して体罰の根絶を図った。

(10) オリンピック・パラリンピック教育と国際理解教育の充実について

- ・東京オリンピック・パラリンピック開催時に、英語力を活かしたボランティア活動に参加できるような生徒の能力と態度を育成した。
- ・3月にオリンピック教育講演会を実施した。
- ・国際理解教育推進では、6月にスコットランドの修学旅行生34名(引率教員7名)が来校し、外国語コースの生徒と交流を図った。7月、12月には東京体験スクールによるアメリカ、オーストラリアからの留学生計4名がそれぞれ10日間来校し、交流を深めた。3月には、1,2学年全クラスを対象に、JACAによる国際理解教室、に外国語コースの生徒を対象に専修大学留学生による異文化理解講座を開催した。

(11) 思いやりのある心の育成について

- ・思いやりのある心の育成のために、学年担任と進路指導部、保健部等が連携し、新教科「人間と社会」の指導計画を策定し、価値の理解を深める学習、選択・行動に関する能力を育成する学習及び体験活動等を通して道徳性を養った。
- ・学校設定科目「交流体験学習」を設置し、学修を実施した。
- ・地域連携事業を積極的にを行い、生徒の社会貢献意識を涵養する機会を増やした。

## (12) ライフ・ワーク・バランスの推進

- ・教員個々に前月の残業時間を示し、80時間を超える教員には個別に注意を促した。
- ・個別に進路指導を行う3学年担任の超過勤務が目立った。AO・推薦入試がひと段落した秋以降、超過勤務が減っていった。
- ・週一回の定時退庁(各自)、月一回20時完全退庁日(最終火曜日)を設定し退庁を促した。

## II 経営企画室の取組目標と自己評価

### (1) 経営企画室の経営参画の推進

- ・年度当初に経営参画ガイドラインを確認し、経営企画室と教員との連携を強めて学校全体としての共通理解をもち、経営企画室の経営参画を推進して、各課題の解決を図った。
- ・意欲ある受検生を確保するために、教務・総務部が所管する募集広報活動に企画段階から関与し、費用対効果の観点及び内容のわかりやすさ等、都民目線での提言を行った。
- ・生徒の生命、身体に関わる事故を未然に防止するため、教員と連携しながら施設、設備の点検を日常的に実施し、速やかな対応を行った。

## III 数値目標の達成状況

内 容	目 標	結 果	備 考
学校評価アンケート 授業満足度	90%	78.5%	学校評価における生徒の肯定的割合(前年度75.4%)
GTEC for students	10名	前年度より11 ポイント%向上	(前年度0名)
中堅私大の合格者数	50名	14名	日本・東洋・駒沢・専修の合計合格者(前年度23名)
学校評価アンケート 部活動満足度	80%	77%	学校評価における生徒の肯定的割合(前年度76%)
部活動加入率	85%	84%	部活動加入状況調査の報告時 前年度84%
学校見学会、説明会 参加者数	4000名	4666名	見学会、説明会、入学相談会の 合計(前年度3873名)
長期休業中の講座数と講 習・補習の参加人数	40講座以上600 名以上	28講座 472名	(前年度32講座563名)
自宅学習時間(授業以外 で自習する)の確保	毎日1時間以上を 40%以上	1年23% 2年25%	前年度1年15% 2年27%
イングリッシュ・サマースクール、海 外の修学旅行生誘致によ る英語体験活動の満足度	80%以上	78.0% 92.0%	前年度73.6%
学校評価における本校満 足度	90%以上	89.6%	(前年度89.6%)
読書の推進 ビブリオバトル含む読書の意 欲	生徒の肯定的評価 40%以上	34.1%	(前年度35.2%)
英語検定 2級、準2級取得者数	2級15名以上 準2級40名以上	準1級3名 2級24名 準2級44名	前年度2級20名 準2級36名

